

ご挨拶

私は今、「福島移住支援ネットワーク・Empowerment of Immigrant Women Affiliated Network (EIWAN=エイワン)」で、毎週木曜日と第一・第三木曜日の午前中に日本語を教えています。2011年3月11日の東日本大震災による地震・津波の被害と共に、東京電力福島第一原発事故による放射能汚染の被害は、福島県内の人々に多層的で長期的な影響を、14年を経た今も及ぼしています。それは、同じ地域に生きる外国籍の住民、特に移住女性たちにも当てはまります。この女性たちは、外国籍であるために、生活再建への支援、放射能に関しての情報、家庭内外での諸問題を解決するための制度へつながる方策や方法などが著しく欠けた状況に置かれ、現在に至っています。そのためEIWANでは、人権としての日本語識字学習への支援、労働・生活・DV・在留問題等の相談や同行支援、移住女性の子どもたちに対する教育支援、そして地元市民と移住女性の協働を目指しての関係づくり等、福島市に事務所を置いて活動しています。

そうした文化背景の異なる方々との間のコミュニケーションは、特別なことではなく、日常的なこととなっています。日本人同士でも文化背景は同じではありません。男女間、熟年層と若者、学生と社会人等では文化背景が違います。EIWANには、4～6か国ほどの外国籍の方々が日本語学習に来られます。私も、毎週、異文化コミュニケーションの機会を得ています。英語も日本語も通じない日本語入門学習者もおられます。そうした方々と異文化コミュニケーションをどのように図っていくかが課題です。

EIWANの活動を通して「異文化コミュニケーションの基本は、開かれた心と態度であること、それにコミュニケーション活動へ積極的に参加することであること」を覚えます。ある種の「決めつけ」によって、事実や真実を見えにくくしてしまうことが起こります。コミュニケーションは相互作用です。たとえ文化や言語、考え方や行動様式などの違いによってコミュニケーションの壁が起こったとしても、簡単に「わからない」とあきらめるのではなく、互いに、相手を知ろう、理解しよう、とする意欲が大切であると思われています。

東日本大震災の被災地では、こうした異文化コミュニケーションの衝突が、頻繁に起こります。今回の「東北ヘルプニュースレター」には、「本当の『復興』を望見する」と「宗川さんの意見」という二つの大きな記事が掲載されていますが、どちらも私たちに、理解しよう・知っていこうという意欲へ駆り立てます。開かれた心・しなやかな思考をいただき、事柄に向かい合いたいと思います。

引き続き被災地を覚えてお祈りください。特に、未だ解除されていない「原子力緊急事態宣言」の中、福島の人々をお覚えください。

時間の経過は、記憶を薄れさせますが、私たちは、この地域で生き・この地域の方々と共にこれからも歩み・「共に生きる」ことを通じて、そこで生きる人々の「現実」と「具体」を一緒に生きていきたいと願っています。どうぞ機会がありましたら、ぜひ福島においでください。

今年も記録的な暑さとなるようです。ご健康が守られますように。心から祝福をお祈りします。

福島主のあしあとキリスト教会牧師 EIWAN運営委員・日本語サポーター
NPO 法人「東北ヘルプ」理事 大島博幸